令和４年度 事業報告

公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会

自　令和　4年4月　1日

至　令和　5年3月31日

＜概況＞

本協会は1980年7月26日に創立され、昨年42周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と長年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、平成26年4月1日に移行・設立した。

また、令和4年7月26日付にて、創立時より本協会をリードしてきた永池榮吉会長が名誉会長に就任し、新会長として永池豊理事が就任した。

事業運営面では、公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、北関東、東海、近畿、中国などの地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、未来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

中でも、事業推進の原動力となる「全国代表者会議」は、本部と主要6地区の代表者によって具体的事項を協議・決定し、その内容が東・西の「全国指導者会議」に報告され、地区の運営に活かされている。

令和2年初頭から約3年にわたり、新型コロナウイルス感染の影響により講座・セミナー、研修、会議など全国各地の活動全般が大きな制約を受ける中、オンライン開催あるいは対面とオンラインの併用開催を実施した。さらに、会員個人情報の適正管理、組織の効率的な運営等を目的とした「会員データシステム」の導入やスコーレの学習システムに、PCやスマホで使えるアプリのテキストを導入する等の「デジタル化」を推進し、コロナ禍の状況に対応してきた。これらは活動の継続と会員組織の維持に一定の成果はあった。今年度は、感染状況の緩和に応じて、対面による活動をさらに増やす取り組みを行なった。

＜事業活動＞

Ⅰ．家庭教育の振興

⑴　各地の教育委員会や幼稚園、小学校PTA等からの要請を受けての、講演会の講師派遣については、令和 3 年度まで新型コロナウイルス感染のリスクを考慮して見送っていたが、今年度はオンライン配信も含めて一部復活した。

⑵　各地の教育委員会より 188 回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象にオンラインを中心に「家庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「子育てセミナー」は、規模を最小限に抑えて感染対策を徹底した上で開催し、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。これらの講座開催は 1,107 回（前年比+336 回）に及び、延べ 19,591 人（前年比+4,006 人）が受講した。

⑶　協会の 57 人のカウンセラーによるカウンセリングは、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っているが、今年度は感染対策を取った上で、各地区で実施した。

⑷　成人男性対象の組織『スコーレ・マスターズ』は、これまで地区毎に分散して学習会を開催してきたが、コロナ禍をきっかけに、オンラインによる全国規模の学習会をスタートさせた。その結果、遠隔地からの参加が増えてきている。

⑸　熟年女性対象の組織『スコーレ・グレイセス』は、コロナ禍により活動が制約された。ただ、腹式呼吸と発声を目的とした「グレイセス・ヴォーチェ」や「活き活きトレーニング」の YouTube 配信等が、好評を博している。

Ⅱ．研修の実施

⑴　「早朝研修」は全国の会場で毎朝開催しているが、感染防止の観点からオンライン開催、または会場とオンラインの併用開催のいずれかとなり、延べ人数は 336,359 人（前年比+3,769 人）に上った。

⑵　初級・中級・上級者向けのボイストレーニングは腹式による全力発声を伴うため、令和 3 年度に引き続き対面での開催は断念し、メニューや参加方式などを検討・準備した上でのオンライン開催が主となり、延べ 6,971 人（前年比+693 人）が受講した。また同トレーニング修了者が受講する「ことだまコース」については、受講人数が比較的少ないこともあり、距離を取り換気を行った上で、対面にて開催した。

⑶　お母さんがゲーム感覚で子供と共感体験できる「ふれあいトレーニング」、寝たきりや転倒防止を図る「活き活きトレーニング」は、身体の接触を伴うメニューが含まれているため、対面では行わずにオンラインのみでの開催とした。

⑷「家庭教育講座」の講師として、今年度新たに 3 人が「本部講師検定試験」に合格し、現在 39 人の講師が全国の家庭教育講座を担当している。

⑸　「心身開発トレーナー」を認定するトレーナー審査会を開催して、12 人が合格し、現在、全国で有資格者 178 人が各地区で活躍している。

⑹　「リーダー研修」「実践者研修」等をオンライン中心に実施し、合せて 4,698 人が受講した。

⑺ 会員向けの『自己発見の旅』学習は 58 人が受講修了し、修了者は延べ 2,786 人となった。

Ⅲ．研究プロジェクトの実施

⑴　入会後に取り組む『スタート』学習、その後『ステップ・UP』学習を経て『自己発見の旅』学習を受講してレベルアップを図る学習プログラムが定着している。特に『スタート』学習、『ステップ・UP』学習については、これまで使用してきた紙の教材に加えて新たにPCやスマホで使えるアプリ版のテキストを導入した。併せて、アプリ版の本格運用に向けたオリエンテーションも実施し、今後の両学習の更なる活用を図ることができた。

⑵　一部賛助会員からの要請により、社員教育の一環として講師・トレーナーを派遣し、ボイストレーニング・ふれあいトレーニングなどを中心に実施している。今年度は、感染対策を徹底した上で3回開催した。

Ⅳ．ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

⑴　ベルマーク収集活動は、今年度の集票点数は365,924点であった。創立以来のベルマーク収集の全国累計は2,400万点を超えている。

⑵　第44回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」では、昨年度までコロナ禍により中止となっていた街頭での募金活動を18か所で241人が参加して開催した他、各地区に募金を呼びかけて集まった分も含め、1,236,332円を公益財団法人日本ユニセフ協会に収めた。

⑶　使用済み切手は、141,200Kgとなった。これらは日本キリスト教海外医療協力会に寄贈し、海外の医療・社会衛生分野への支援を行うほか、社会福祉法人「聖明園」にも送った。

⑷　未使用ハガキの収集枚数は、4,533枚となり、学校法人「アジア学院」への援助などに活用されている。

⑸　日本学術会議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、同学会が認定する「家庭教育師」に新たに2人が認定され、現在25人が認定者となっている。

Ⅴ．普及事業

⑴　月刊『すこ～れ』（通巻504号）は、生涯学習誌として、内外の好評を得ている。

⑵　平成30年7月創刊の季刊冊子「スコーレフレンズ」は、一般向け広報誌として、講座案内用のチラシとセットで配布されている。

⑶　令和3年1月にリニューアルした協会公式ホームページでは、各地の家庭教育講座の受講申し込みがHPを通じて行えるようにし、また最新の講座のチラシを一覧できる機能も付加した。

⑷　相模原市の地元紙「相模経済新聞」に、子育て中の父親向け企画として、Q&A方式のコラム「お父さんのお悩み相談室」を毎月、連載した。

⑸　女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」（5 巻）は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。

⑹　「ボランティア通信」（通巻 56 号）を年 2 回 11,000 部発行し、全国の収集ボランティア協力者に広く読まれている。

Ⅵ. その他の事業

令和 3 年 9 月より、本協会が所有している建物の一部（1 階 175.18 ㎡）を、障害者総合支援法に基づいた事業を展開する一般社団法人ディーセントワールドに賃貸し、収益事業として運営している。

＜会員動向＞

会員等区分の名称	令和 4 年 3 月 31 日	令和 5 年 3 月 31 日	前年比
一般会員	16,667 人	16,696 人	100%
特別会員	8,106 人	8,533 人	105%
合計	24,773 人	25,229 人	102%
賛助会員	7 社	7 社	100%

以　上